

コリント前書序言

コリントのこと コリントはギリシア國の最も古い都會であつて、ギリシア本土をペロボネズにつなぐ、きわめて狭い地峽の上に位し、やや海を離れてはいるが、近くに二つの港を有する。その一つはケンクライで、東にあつてエグエ海に通じ、他の一つはレケオンで、西にあつてイオニア海に通じる。コリントはこのよだな無比の好位置を占めていたので、東西貿易の盛大な市場となつて人口が繁えんし、雜種人の入り込むこと多く、風俗は大いに頽廢してしまつた。キリスト降世前一四六年にあたり、ロマ人のために、いつたん破壊されたが、また百年を経てセザル皇帝のために再興され、皇帝の庇護によつて、ほどなくもとの地位と富とを回復し、従つて道德の頽廢もまたもとのごとく、遊蕩することを諺で「コリントのごとくにする」と言うほどになつた。が、アカヤ州の都として單に商業だけでなく、文芸、學術、ともに隆盛で、シセロをして、この地をさし「全世界の燈台」と言わせるに至つた。

コリント教会とパウロとの關係 初めてコリントにキリスト教を宣布したのは實にパウロであつて、彼はその伝道旅行の第三回目にここに至り、使徒行錄第十八章にしているように、まずユデア人のうちに布教したところ、改宗した者も少しあつたが、多くはその教えに抵抗したので、パウロはこのたびは異邦人に向かつて布教した。ところがこれに従う者のうちには上流社會の人もなかつたが、最初信者となつたのは、おおむね下流社會の人であつた。パウロ

の滞在は一年半ほどだったものの、その出立ののちもコリント教会は着々として発展した。これには、もとアレキサンドリアのユデア人でエフェゾにおいてキリスト教に帰依したアポルロと言う布教者の奮發と雄弁との力が大いにあずかっていた。しかしパウロの勢力の影響も、のちには次第に薄らいでいき、コリント一般の道徳が腐敗するとともに、教会にも種々の弊害が生じたので、パウロはこのために一つの書簡をしたため、有罪者と絶交しないことをとがめたが、その書簡は今は失われて存在しない。

コリント前書の由来 かの書簡を送ったのち幾らも経たぬころパウロはクロエと言う婦人の家からコリント教会の中に争論分裂の起こと、および信者のうちに、はなはだしい悪例を示した人のあることを聞いたが、一方にはまた漸次、信者が訴訟の仲裁ちゅうさいを信者相互の間に仰がないで、世間の裁判に提出する風かうが生じ、また婦人の身でありながら教会の中で、そのおおいを脱いで公然と説教する者があり、聖体拝領の時にもよおす愛さん、聖靈より信徒に賜わる賜ものについてもまた弊害をかもし、なおまた復活について種々の疑惑謬説ひゆうせつが起こったので、信者のうちには書簡をもつてパウロに種々のことと聞いて疑いを尋ねてきたので、その問うたところやパウロの聞いたところなどが、本書をしたたむる機会となつた。それで本書の目的は、教会の分裂を防止し、聞き及んだ種々の弊害を矯正し、教理上の疑いを解き、また最も有益な実用的訓戒を与えることにある。

本書をしたためた所および年代 本書をしたためた所はむろんエフェゾで、時代は紀元五七年であろう。

本書の題目、文章、および区分 本書はすでに言つたように種々のわけがらから成り立つてゐるものであるから、ロマ書やガラチア書のように單にある一問題を論ぜず、種々の実用的訓戒にわかつてゐる。ゆえにその思想が異なるのに応じて文章もまた異なり、その説くところは、時としては諄々として尋常の訓戒のようであるが、時としては非常な熱誠を表わして、熱愛、憤怒、嘲罵の色を示すこともないではない。主なる区分を言えば、まずコリント信徒に例の挨拶をしてのち、その分裂を論じ（一章十節～四章二十一節）、次にコリント信徒の社会的生活について訓戒を与え、まず一信徒の不品行（五章一～十三節）、信者間の訴訟（六章一～十一節）、私通の罪（六章十二～二十節）、婚姻および童貞生活についての意見（七章一～四十節）、偶像の供物のこと（八章一節～十一章一節）を述べ、次に祭典に関する三つの問題を説き、第一、婦人のおおい（十一章二～十六節）、第二、聖体に対する紊亂（十一章十七～三十四節）、第三、靈的賜もの（十二章一節～十四章四十節）、終わりに教理に関する問題すなわち死者の復活を論する（十五章一～五十八節）。第十六章は結末で、種々の伝言、勧告、挨拶などを含んでいる。

本書の効益 本書は教会初代のありさまを知ろうとする者に最も有益であるばかりでなく、中に含まれる訓戒、なかんずく人知を重んじる弊害を説き、社会における交際の方法について教え、信仰の主な箇条について自説を重んじる傾きをため直すあたりは、ことに傾聴すべきものがあつて、また教理上の疑いをきわめる点においても今なお大いに益がある。

使徒聖パウロ、コリント人に送りし先の書簡

冒頭

頭

第一回
挨拶

1 神のおぼしめしによりてイエズス・キリストの使徒と召されたるパウロ、ならびに兄弟ソステネス、¹ 2 コリントにある神の教会、すなわちキリスト・イエズスにおいて聖とせられ聖徒と召されたる人々、および彼らの所、われらの所、いずれの所にもありて、わが主イエズス・キリストのみ名を呼べる人々一同に「書簡を送る」。³ 願わくは、わが父にてまします神および主イエズス・キリストより恩寵と平安とを汝らに賜わらんことを。

コリント人の富につきて感謝す ⁴ キリスト・イエズスにおいて汝らに賜わりたる神の恩寵につきて、われ絶えず汝らのために、わが神に感謝し奉る。⁵ そは汝ら彼において、すべての教え、すべての知識、何ものにも富める者となりたればなり。⁶ けだしキリストの証明、汝らのうちに固くせられたれば、⁷ 汝らいかなる恩寵にも欠くるところなくして、わが主イエズス・キリストの現われ給うを待てるなり。⁸ 神は汝らを終わりまで堅固ならしめ、無罪にして、わが主イエズス・キリストの降臨の日至らしめ給うべし。⁹ そは、その御子にてましますわが主イエズス・キリストにくみすべく、汝らを召し給える神は眞実にてましませばなり。

第一編 コリント信者間の分裂をとがむ

第一項 分裂の第一原因すなわちこの世の知恵

分裂の性質および排斥 10 兄弟たちよ、わが主イエズス・キリストのみ名によりて、われ汝らに勧告す、汝らみな言うところを同じゅうして、その間に分裂あることなく、同意同説に全く相一致せんことを。11 けだし、わが兄弟たちよ、クロエの家の人々より報じ来りしころによれば、汝らの間に「種々の」争論ある由。^{よし} 12 われこれを言わんに、汝らおののおの、われはパウロのもの、われはアポルロのもの、われはケファ⁴のもの、われはキリストのものなりと。13 キリストありに分割⁵せられ給いし者ならんや、パウロは汝らのために十字架につけられしか、あるいは汝らはパウロの名によりて洗せられしか。14 われは汝らのうちクリス⁵ポとカヨとのほか、たれをも洗せざりしことを神に感謝す、15 されば一人もわが名によりて洗せられたりと言う者はあらじ。16 なおステファナの一家をも洗したれど、そのほかには、われ人を洗したるを知らざるなり。

世の知恵は十字架の宣教をもつて罪せらる 17 けだし、わがキリストより遣わされしは洗するためにはあらずして福音を伝へんためなり。しかも言葉の知恵をもつてすべきにあらず、これキリストの十字架のむなしくならざらんためなり。18 けだし十字架の言葉は滅ぶる人には愚かなることなれども、救わるる者すなわちわれらには神の大能なり。19 書きしるして、「われは知者の知恵を滅ぼし、賢者の賢さをそくなわん」とあればなり。20 この世の知者いすこにかかる、律法學

21 者いざこにかある、論者いざこにかある。神はこの世の知を愚ならしめ給いしにあらずや。²¹け
だし世「の人」は、その知恵をもつて神の全知「の業」において神を認めざりしかば、神は宣教の
愚をもつて信者を救うをよしとし給えり。²²すなわちユデア人は印を求め、ギリシア人は知恵を
尋ねるに、²³われらは十字架につけられ給えるキリストを述べ伝うるなり。これユデア人にとり
てはつまづくもの、ギリシア人にとりては愚なることなれども、²⁴召されしユデア人およびギリ
シア人にとりては神の大能、神の知恵たるキリストなり。²⁵そは神の愚なるところは人よりもさ
とく、神の弱きところは人よりも強ければなり。

30-29 26 神は低き者を選び給えり ²⁵兄弟たちよ、汝らの召されし者を見よ、肉によれる知者は多から
ず、有力者は多からず、尊き者は多からず、²⁷かえつて知者をはずかしめんとて神は世の愚かな
ところを召し給い、強きところをはずかしめんとて神は世の弱きところを召し給い、²⁸現にあ
るところを滅ぼさんとて神は世の卑しきところ、ないがしろにせらるるところ、なきところをば
召し給いしなり。²⁹これ何人も、み前において高ぶらざらんためなり。³⁰汝らは神によりてこそ、
われらの知恵と義と成聖と贖いとになり給いしキリスト・イエズスにあるなれ。³¹これ書きしる
されたるごとく、「誇る者は主において誇らん」ためなり。

① バウロの協力者。② いわゆる天主教会。③ 福音の意。④ ペトロ。⑤ 使徒行録18・8 ⑥ ロマ書16・23 ⑦ 本書
16・15 ⑧ イザヤ29・14 ⑨ その無能を示しの意。⑩ 出エジプト記16・3、17・2、マテオ12・38、16・1 ⑪ 召
されたことの意。⑫ エレミア9・23、24

第二項 分裂の第二原因すなわち神の知恵を おもんばからざること

第二章

パウロの宣教の質朴なること 1 兄弟たちよ、われも汝らに至りし時、高尚なる談話あるいは知恵をもたらして神の証明¹を汝らに告げしにあらず。2 けだし、われ汝らのうちににおいてイエズス・キリスト、しかも十字架につけられ給いたるそれのほかは何をも知るをよしとせず、3 汝らのうちにありて弱くしてかつ恐れ、かつ大いにおののく者なりき。4 またわが談話、わが宣教は人を屈服^{くつぶく}せしむる人知の言葉にあらずして聖靈および大能を表わすにありき。5 これ汝らの信仰が人間の知恵によらずして神の大能によらんためなり。

神の知恵の完全にして深奥なること 6 しかれども完全なる人々のうちににおいては、われら知恵のこととを語る。ただし、この世の知恵にあらず、この世における滅ぶべき君主たちの知恵にあらず、7 語るところは神の不可思議なる知恵にして、すなわち（長く）隠れたりしもの、神が人々に先立ちて、われらの光榮として予定し給いしものなり。8 この世の君主たちは一人もこれを知らざりき。けだし知りたりしならば彼らは決して光榮の主を十字架につげざりしならん。9 しかるに書きしるされしごとく、神がこれを愛する人々に備え給いしこと、目もこれを見ず、耳もこれを聞かず、人の心にものぼらざりしを、神おのが靈をもつてわれらに表わし給いしなり、10 そは靈は神の深き所に至るまで万事を見通し給えばなり。11 けだし人のことは、その身にある人の靈のほかに、いかなる人かこれを知るべき。かくのごとく神のこともまた神の靈のほかにこれを

12 知る者なし。12さて、われらが受けしはこの世の靈にあらず、神より出で給う靈にして、神より
 13 われらに賜わりたることを知らんためなり。13またわれらがこれを語るにあたりて、人知の教う
 る言葉をもつてせず、靈の教え給うところをもつてして靈的事物に靈的事物を引き合わするなり。⁴
 14 しかるに肉的人物は神の靈のことを受け入れず、これ靈的に是非すべきものなれば、彼にとり
 15 ては愚かに見えて、これを悟ることあたわざるなり。15しかるに靈的人物は万事を是非して、お
 16 のれはたれにも是非せられず。16けだし、たれか主のねん念を知りて、これにさとす者あらんや、わ
 れらはキリストのねん念を有す。

①ラテン訳ではキリストの證明。福音の意。②信仰の堅固な人の意。③イザヤ64・4 ④ラテン訳では靈の教え。⑤
 聖靈の教え給うたことを、その示し給うた方法によつて告げるの意。

第三項 なおコリント人の争論をとがむ

第三章

1 コリント人はなお肉的人物なり 1兄弟たちよ、われは先に靈的人物に対するがごとく
 にして汝らに語ることあたわづ、肉的人物すなわちキリストにおける小兒しょうじに語るがごとくにして、
 2 汝らに乳ちちを飲ましめ、固き食物を与えざりき。これ、その時汝らいまだこれにかなわざりしゆ
 3 えなりしが、汝らは今もなお肉的人物なるをもつて、これにかなわざるなり。3すなわち汝らの
 間にねたみと争い1あるは、これ肉的にして人のごとく歩むにあらずや。

4 使徒たちは神の使用者にすぎず 4ある人、われはパウロのものなりと言うを、他の人、われ
 はアポルロのものなりと言えば、汝らなお人たるにあらずや。さらばアポルロ何者ぞ、パウロ何

者ぞ、⁵ 彼らは汝らが、よりもつて信ぜしもべにして、しかも主のおののに賜いたるまゝの者にすぎず。⁶ われは植え、アポルロは水注げり、されど発育を賜いしは神なり。⁷ されば植うる人も水注ぐ人も、ともに数うるに足らず、ただ発育を賜う神あるのみ。⁸ 植うる人も水注ぐ人も一つにして、おののおのその勞^うに従い、めんめんの報いを受くべきなり。⁹ けだし、われらは神の助手にして、汝らは神の耕作地なり。神の建築物なり。

布教者の責任 ¹⁰ われは賜わりたる神の恩寵に従いて、さとき建築者のごとく土台をすえしに、他人はその上に建築す、おののおのいかにしてその上に建築すべきかをおもんぱかるべし。¹¹ そは、すえられたる土台すなわちキリスト・イエズスを除きては、たれも他の土台を置くことあたわざればなり。¹² 人もしこの土台の上に、金、銀、宝石、木、草、わらをもつて建築せば、¹³ めんめんの建物現われん、けだし主の日³において明らかにせらるべし、そは火をもつて表わされ、火はめんめんの建物のいかんをためすべければなり。¹⁴ もしたれにもあれ、その上に建築したる建物にしてこれに堪えなば、その人は報いを得べく、¹⁵ もしその建物焼けなば、その人は損を受けん、されど、おのれはほとんど火を経たるごとくに救わるべし。

訓戒 ¹⁶ 汝らは、その身が神の聖殿なること、神の靈汝らのうちに住み給うことを知らざるか。⁴ ¹⁷ 人もし神殿をこぼたば神これを滅ぼし給うべし、けだし神殿は聖にして汝らはすなわちそれなり。

前の事がらを総合す ¹⁸ たれも自ら欺くことなかれ、汝らのうちにおのれをさとしと思ふ者あらば、知者たらんためにこの世において愚かなるべし。¹⁹ そは、この世の知恵は神のみ前に愚か

なればなり。けだし書きしるして、「われ知者らをその狡猾こうがつによりて捕えん」とあり。²⁰また、
 「主は知者らの思いのいたずらなるを知り給う」⁸とあり。²¹されば、たれも人をもつて誇りとな
 すべからず、²²けだし万事は汝らのものなり、あるいはパウロ、あるいはアポルロ、あるいはケ
 ファ⁹、あるいは世、あるいは生、あるいは死、あるいは現在のこと、あるいは未来のこと、すな
 わちいっさいは汝らのものなり、²³されど汝らはキリストのものにしてキリストは神のものなり。

^①ガラチア書5・20 ^②ラテン訳では汝らが信ぜしものの役者。③審判の日の意。④汝らの会に之の意。⑤ラテン訳
 では囁さば。⑥ラテン訳では見ゆる。⑦ヨブ記5・13 ⑧詩編93・11 ⑨ペトロ。

第四項 パウロ自己の弁解

第三章 1 パウロは人の批評を意とせず 1 されば人はよろしく、われらをキリストのしもべ¹、神
 の奥義の分配者と思ふべし。2さて分配者に要求するところはその忠実なることなれど、3われ
 は汝らにより、あるいは人の裁判によりて是非せらることをいささかも意とせず、また自ら是
 非することをもせざるなり。4けだし良心に何のとがむることはなけれども、これによりて義と

5 せらるるにはあらず、われを是非し給う者は主なり。5されば汝ら主の來り給うまでは時に先立
 ちて是非することなかれ、主は暗夜^{あんや}の隠れたる所を照らし、心の計りごとをあばき給うべし、そ
 の時、めんめんに神より誓ほまれを得ん。

6 パウロ自身をコリント人に比較して諷刺す¹⁰ 6 兄弟たちよ、わがこれらのことわ、われとアポル
 ロとに引き当てて言いしは、これ汝らのため、すなわちわれらの例をもつて書きしるされたる以

7 外に、一人を上げ一人を見下して誇らざらんことを汝らに学ばしめんためなり。7けだし汝を差
 別する者はたれぞや、汝の持てるものにして、もらわざりしものは何がある、もらいしならば何
 8 ぞもらわざりしがごとくに誇るや。8汝らすでに飽き足れり、すでに富めり、われらをさしおき
 9 て王となれり。しかし汝ら王たれかし、さらば、われらも汝らとともに王たるを得ん。9けだし
 われ思うに、神は使徒たるわれらをしりえの者、死に定まりたる者として見せ給えり。すなわち
 10 われらは全世界、天使たちにも人間にも見物みものとせられたるなり。10われらはキリストのために愚
 者なるに、汝らはキリストにおいて知者なり、われらは弱くして汝らは強く、汝らは尊くしてわ
 11 れらは卑し。11今の時に至るまでも、われらは飢え、またかわき、また素肌ナハダなり、また頬ほおを打た
 12 れ、また定まれる住み家なく、12また手業てわざを営みて勞し、呪われては祝し、迫害せられては忍び、
 13 13ののしられては祈り、今に至るまでも世のあくた、衆人の捨て物のごとくなれり。
 父としての戒め 14わがかく書きしるせるは汝らをはずかしめんとにはあらず、ただわが至愛
 15 なる子として戒むるのみ。15けだし汝ら、キリストにおいて師は一万ありとも父は數多かずからず、そ
 16 は福音をもつて汝らをキリスト・イエズスに生みたるは、われなればなり。16ゆえにわれ汝らに
 17 こいねがう、（わがキリストにならえるごとく）汝らもわれにならえ。17われはこれがために、
 主において忠実なるわが至愛の子チモテオを汝らに遣わしたるが、彼はキリスト・イエズスにお
 けるわが道、すなわち至る所の各教会に、わが教うるところを汝らに思い出ださしめん。
 パウロ、コリントに至らんとす 18ある人々は、われ汝らに至らずとて誇れども、19主のおぼ
 しめしならばわれは速かに汝らに至り、誇れる人々の言葉をさしおきてその実力を知らんとす。

²¹⁻²⁰ 20 これ神の国は言葉にあるにあらずして実力にあればなり。21 汝らはいぞれをか望める、わがむ、ちをもつて汝らに至らんことか、はた愛と温和の心とをもつて至らんことか。

① ラテン訳では役者。② 人に知られない善惡の意。③ キリストの国において。チモテオ後書2・12、黙示録3・21、5・10 ④ 使徒行録18・3、20・34、コリント後書11・7と9、テサロニケ後書3・1 ⑤ ガラチア書4・19

第二編 コリント人の国民生活に関する規則

第一項 近親相婚者の事件

第五章 近親相婚者の排斥 1 取りすべて聞くところによれば汝らのうちに私通^{しつう}あり、しかも異邦人のうちにもあらざるほどの私通にして、ある人はその父の妻¹をめとれりと言う。

2 破門^{はもん}の宣告 2 かくても汝らは高ぶるか、これを行なえる人の汝らのうちより除かれんことを望みて嘆かざるか。3 われ、身こそはそこにあらざれど、精神にてはそこにありて自らこれにのぞめるがごとく、しか行ないし人をすでに裁判せり。4 すなわち、わが主イエズス・キリストのみ名により汝らとわが精神と相合^{あいかつ}して、わが主イエズス・キリストの権力をもつて、5かかる徒^{とも}輩^{がら}*をサタンに渡す。これ肉体は滅ぶるも精神はわが主イエズス・キリストの日において救われんためなり。

6 排斥の理由 6 汝らの誇れるはよきことにあらず、わずかの種はパンの全体をふくらすと知らずや。7 汝らすでに種なしパンとなりしがとく、古き種を除きて新しきパンたるべし。そは、わ

8 れらが過ぎ越し* 「**の犠牲**」たるキリストは、ほふられ給いたればなり。8 ゆえにわれらは古きパン種および悪事と不義とのパン種を用いらずして、純粹と真実との種なしパンを用いて祝わざるべからず。

悪しき信者を避くべし 9 われかつて書簡にて私通者に交わるなかれと書き送りしが、こはこの世の私通者、あるいは貪欲者、あるいは掠奪者、あるいは偶像崇拜者に交わるなかれとにはあらず、10もし、しかば汝らこの世を去らざるを得ざりしならん。11されども交わるなかれと今書き送るは、もし兄弟と名づけらるる人にして私通者、あるいは貪欲者、あるいは偶像崇拜者、あるいは侮辱者、あるいは酩酊者、あるいは掠奪者ならば、かかる人と食事をもともにすることなかれとなり。12そはわれ、いかでか外にある人をば神ぞ裁き給うべき。悪人を汝らのうちより取り除け。

(1) 繼母の意。(2) 審判の日の意。(3) あるいは悪くす。(4) 今は失せたもの。(5) 信者と呼ばれる。(6) 教会外の意。

第二項 信者間の訴訟

第六章

異邦人の審判を仰ぐべからず 1 汝らのうちに相関係せる事件ある時、その裁きを聖徒に願わざして正しからざる人々に願うことをあえてする者あるは何ぞや。2 聖徒はこの世を裁くべき者なりと知らずや、されば世は汝らより裁かるべきに、汝らは、きわめて些細なることを裁くに足らざるか。3 知らずや、われらは天使たちを裁くべき者なり、いわんや世のことをや。4

5 ゆえにもし裁くべきこの世の事件あらば、これを裁くために教会内の卑しき人々を立てよ。5 かく言えるは汝らをはずかしめんとてなり。さらばその兄弟の間のことを裁くべき賢き者、汝らのうちに一人もあらざるか。6 しかるを兄弟、兄弟を相手どりて、しかも不信者の前に訴訟を起こす。

6 うちに一人もあらざるか。6 しかるを兄弟、兄弟を相手どりて、しかも不信者の前に訴訟を起こす。
7 訴訟を避くべし 7 互いに訴訟のあることすら、すでに疑いもなく汝らのうちの失態なり⁴。何ゆえに、むしろ不義を受けざる、何ゆえに、むしろ害を忍ばざる、8 かえつて汝ら自ら不義と詐欺とをなし、しかも兄弟に対してこれをなせるは何ぞや。9 不義者は神の国を得ることなしと知らずや。誤ることなけれ、私通者も、偶像崇拜者も、姦淫者も、10 男娼も、男色者も、盜賊も、

11 貪欲者も、酩酊者も、侮辱者も、掠奪者も、神の国を得ざるべし。11 汝らのうちのある人々、先には、かくのごとき者なりしかど、わが主イエズス・キリストのみ名により、またわが神の靈によりて、すでに洗い清められ、聖とせられ、義とせられたり。

12 邪淫を嫌うべし 12 何ごともわれに可なりといえども、みな益あるにはあらず。何ごともわれに可なりといえども、われは決して何ものの奴隸ともならじ。13 食物は腹のため、腹は食物のためなれども、神は、これもかれもともに滅ぼし給うべし。肉体は私通のためにあらずして主のためなり、主もまた肉体のためなり。14 そもそも神は主を復活せしめ給いたれば、み力をもってわれらをもまた復活せしめ給うべし。15 汝らの体はキリストの肢なりと知らずや、さらばキリストの肢を奪いて娼婦の肢となさんか、「いないな」。16 嫦婦につく人は、これと一体になると知らずや、すなわち、いわく、「二人一体にあらん」と、17 されど主につく人は一の靈となるなり。18 私通を避けよ、人の犯す罪はいづれも身のほかにあれども、私通する人はおのが身を犯すなり。19

20 また汝らの五体は神より賜わりて、汝らのうちにまします聖靈の神殿なること、汝らが汝ら自らのものにあらざることを知らざるか。20けだし汝らは高価をもつて買われたり、おのが身において神に光榮を帰し奉れ。

① マテオ 19・28 ② 黙示録 2・26、20・4 ③ 悪天使である。ペトロ後書 2・4、ユダ書 6 ④ マテオ 5・39 ⑤ これはあるいは、ある人々の主張するところであろう。⑥ 創世記 2・24

第三項 婚姻および童貞の身分

第七章

婚姻は正しきことなれば、よろしくこれを善用すべし 1 汝らがわれに書き送りしことにつきては、男の女に触れざるはよきことなり。2されど私通をまぬがれんためには、おのおの妻あるべく、女もおのおの夫あるべく、3夫は妻に負債を果たし、妻もまた夫にしかすべきなり。4妻はその身の権利を有せずして夫これを有するとともに、夫もまたその身の権利を有せずして妻これを有す。5相拒むことなかれ、ただ祈りに従事せんとて合意どういの上しばらくこれをやむるも再びともにそのことに帰るべし、これ汝らが色情しきじょうにつきてサタンにいざなわれざらんためなり。6さてわがかく言えるは命令にあらずして許しなり。7けだし、わが望むところは、汝らみな、わがごとくならんことなりといえども、人おのおの固有こゆうの賜ものを神に得て、一人はこのごとく、一人はかのごとし。8されば婚姻をなさざる人および寡婦やもめに向かいてわれは言う、そのままで、しかもわがごとくにしておらんは彼らにとりてよきことなり。9されどもし自ら制することあた

わづば、よろしく婚姻すべし、婚姻するは「胸の」燃ゆるにまさればなり。

離婚すべからず 10 婚姻によりて結ばれたる人々には、妻は夫に別ることなけれと命ず。これ、われにあらずして主の命じ給うところ¹なり。11 もし別ることあらば、そのままにして嫁が^{とう}す、あるいは夫に和合すべし、夫もまた妻を離別すべからず。

異教者との婚姻 12 その他の人々には、われ言わん、こは主ののたもうにあらず。もし兄弟に不信者なる妻を持てる者あらんに、その妻彼と同居することを承諾せば、これを離別することなかれ。13 もしまだ信者たる女、不信者なる夫を持つることあらんに、夫これと同居することを承諾せば、夫を離れ去るべからず。14 けだし不信者なる夫は（信徒たる）妻によりて聖とせられ、不信者なる妻も（信徒たる）夫によりて聖とせられたるなり。しからざれば汝らの子どもは清からざるべしといえども、今彼らは聖たるなり。15 不信者もし自ら去らば去るに任せよ、

パウロが宣言したる除外例 そはかかる時にあたりて、兄弟あるいは姉妹は奴隸たるべきにあらず、神は平和にわれらを召し給えるなり。16 けだし妻よ、汝いかでかよく夫を救うべきやいなやを知らん、また夫よ、汝いかでかよく妻を救うべきやいなやを知らん。

この理を一般に及ぼす 17 ただ主がめんめんに分配し給いしままに、神がめんめんを召し給いしままに歩むべし、すべての教会においてわが教うるところかくのごとし。18 人、割礼ありて召されたらんか、割礼をつつむことなけれ。人、割礼なくして召されたらんか、割礼を受くることなけれ、19 効あるは割礼にあらず、また無割礼にあらず、神の掟を守ることこれなり。20 おののわが召されし時の身分に留まるべし。21 汝奴隸^{とれい}にして召されたらんか、これを思いわづらうこ

となかれ、たとい自由の身となることを得るも、ひとしお利用せよ。22けだし奴隸にして主に召されたる者は主においては自由の身となりし者、同じく自由の身にして召されたる者はキリストの奴隸たるなり。23汝らは価をもつて買われたり、人の奴隸となることなかれ。24兄弟たちよ、おのおの召されたるままに神にありてこれに留まるべし。

童貞の身分に関する意見 25童貞女につきては、われ主の命を受けざれども、主より慈悲をこもうむりたる者として忠実ならんために意見を与えるとす。26されば目前の困難のためには、われこれをよしと思う。そはそのまゝなるは人にとりてよければなり。27汝、妻につながれたるか、解かるることを求むるなれ、妻にほだされざるか、妻を求むることなれ。28たとい汝、妻をめとも罪とならず、童貞女嫁するもまた罪とならず、ただし、かかる人は肉身上困難を受けん、われは汝らのこれに会うことを惜しむ。29兄弟たちよ、わが言えるはこれなり、時は縮まりぬ、されば妻を持てる人も持たざるがごとく、30泣く人は泣かざるがごとく、喜ぶ人は喜ばざるがごとく、買う人は持たざるがごとく、31この世を利用する人は利用せざるがごとくになるべきほかなし、そはこの世の姿は過ぎ行くものなればなり。

童貞の身分の益 32かくてわれ汝らの思いわずらわざらんことを望む。妻なき人は、いかにして主を喜ばしめんかと主のことを思いわづらうに、33妻とともにおる人は、いかにして妻を喜ばしめんかと世のことを思いわづらうに、34妻とともに主のことを思い、婚姻せざる女と童貞女とは身心ともに聖ならんために主のことを思い、婚姻したる女は、いかにして夫を喜ばしめんかと世のことを思うなり。35そもそもわがこれを言えるは、汝らに益あらんがためにして汝らをわなにかけんとする

にあらず、むしろ汝らをして貞潔に進ましめ、余念なく主に奉侍⁴することを得しめんためなり。

³⁶人ありてもし、わが娘の童貞女の年過ぎたるを恥ずかしとし、しかせざるを得ずと思わば、そ
の望むところを行なえ、娘、婚姻するも罪を犯すにはあらず。⁵ ³⁷されど人ありて心に固く決する
ところあり、必要にも迫られず、わが意のままに事を行なう権力ありて、心のうちに娘を童貞女
にして保つをよしと定めたらん時に、しかするはよきことなり。³⁸さればおのが童貞女に婚姻を
結ばしむる人もよきことをなし、結ばしめざる人も更によきことをなすなり。

再婚のこと ³⁹女は夫の生ける間はつながるれども、夫、永眠⁶すれば自由なり、よろしく望み
の人に嫁ぐべし、ただ主においてなすべきのみ。⁸ ⁴⁰されどわが意見⁹に従いて、もしそのままに留
まらば幸いはひとしおなるべし、われも神の靈を有すと思うなり。

¹ マテオ 5・32、19・9、マルコ 10・11、ルカ 16・18 ² ラテン訳では勧め。 ³ 余命の幾ばくもないことを言うのだろ
う。 ⁴ ラテン訳では妨げなく主に祈る。 ⁵ ラテン訳では娘嫁ぐとも彼に罪なし。 ⁶ ラテン訳では、けだし。 ⁷ ラテン
訳では律法につながるれど。 ⁸ あるいは正当に、あるいは、むしろ信者たる人に嫁ぐべきのみ。 ⁹ ラテン訳では勧め。

第四項 偶像に獻げし供物^{くもつ}

第八章

偶像の供物を食するを得るか 1 偶像の供物につきては、われらみな知識あることを知
る。知識は高ぶらすれども愛は徳を立つ。2 もし人ありて何をか知れりと思わば、そはいまだ、
いかに知るべきかを知らざる者なり、3 人もし神を愛せば、これぞ神に知られたる者なる。¹ 4 偶
像の供物を食することにつきては偶像の世に何ものにもあらざること、また一つのほかに神あら

5 ざること、われらこれを知る。5 いわゆる神々は天にも地にもありて、多くの神、多くの主ある
 6 がごとくなれども、6 われらには父にてまします神ただ一つあるのみ、万物彼によりてなり、わ
 れらもまた彼のためなり。また一人の主イエズス・キリストあるのみ、万物これによりてなり、
 われらもこれによる。

7 用心すべき点 7 しかれども知識は各自にこれあるにあらず、ある人々は今に至るも偶像を、
 ものめかしく思ひて、これが供物として物を食すれば、その良心は弱きものなるがゆえに、これ
 によりて汚さるるなり。8 されど食物は神のみ前において、われらを引き立つるものにあらず、
 けだし食するもまさることなく、食せざるも欠くることなかるべし。9 ただし汝らのその自由が
 弱き人をつまずかせざるよう注意せよ。10 けだし人もし知識ある者が偶像の供物を食卓につ
 けるを見ば、その良心弱きによりて、おのれもいざなわれて偶像の供物を食するに至るべきにあ
 らずや。11 かくてキリストの死して贖い給いし弱き兄弟は、汝の知識のために滅ぶべし。12 汝ら
 がかく兄弟に罪を犯して、その弱き良心を傷つくるは、これキリストに対し奉りて罪を犯すな
 り。13 ゆえにもし食物わが兄弟をつまずかするならば、われは兄弟をつまずかせざらんために、
 いつまでも肉を食せじ。

① 是認されて、その腸ものを得たの意。

第五項 パウロ、生活上に自由を乱用せざりしことを 説き示す

第九章

使徒としての権利を主張す

1 われは自由の身ならずや、使徒ならずや、わが主イエズ
 2 ス・キリストを見奉りしにあらずや、汝らが主にあるは、わが業^{わざ}ならずや。2 われたとい他の人にとりては使徒にあらずとするも汝らには使徒なり、そは汝らは主において、わが使徒職の印章になればなり。3 われに問う人々に対するわが答弁はそれなり。

1 生活上の権利 4さて、われらは飲食する権なきか、5 他の使徒たち、主の兄弟たち、およびケファア³のごとく姉妹なる女を携うる権なきか、6 また、ただわれ一人とバルナバとのみ労働せざる權⁵なきか。7 たれか自ら費用を弁じて戦^{いくさ}に出する者あらんや、たれかぶどう園を植えてその実を食せざる者あらんや、たれか群を牧して群の乳を飲まざる者あらんや。8 われ、あに人間の通常によりてのみ、かかることを言わんや、律法もかく言うにあらずや。9 すなわちモイゼの律法に書きしるして、「汝、穀物^{こくもつ}を踏みこなす牛の口を結ぶことなかれ」⁶とあり。神は牛のためにおもんばかり給えるか、10 これをのたまえるは實にわれらのためなるか、しかり、われらのために書きしるされたるなり。けだし耕す者は希望をもつて耕し、穀物^{こくもつ}を踏みこなす者もその実を得るの希望をもつてすべきなり。11 汝らのうちに靈的のものをまきたるわれらなれば、汝らの肉的のものを刈り取るとも、あに大事ならんや。12 他の人、汝らの上にその権を有するに、われら何をもつてかひとしおしからざらんや。しかれども、われらはこの権を利用せずして、いささかもキリストの福音を妨げざらんために何ごとも忍ぶなり。13 汝ら知らずや、聖職を當む人々は〔聖〕殿のものを食し、また祭壇に仕うる人々は祭壇の分配にあずかる。14 ごとく主もまた福音を述ぶる人々が福音によりて生活することを定め給いしなり。

15 その権を利用せざるゆえん、¹⁵われ、かかると一つも利用せざりしに、しかもこれを書き
 送るは、かくのごとくせられんとにはあらず、そは、この名譽の点⁹を人に奪わるよりは、むし
 ろ死するこそ、われにとりてよければなり。¹⁶けだし福音を述べるも、これをもって名譽とする
 にあらず、われはその必要に迫れるなり。福音を述べ伝えざらんは、われにとりて禍いなればな
 り。¹⁷すなわち快くこれをなせば報いを得、心ならずこれをなすもその務めはわれにゆだねられ
 たるなり。¹⁸さらばわが報いはいかなるものぞ、そは福音を述べて人に費えなく福音を得させ、^え
 福音におけるわが権¹¹を利用せざることこれなり。¹⁹けだし、われは衆人に対する自由の身なれど
 も、なるべく多くの人をもうけんために身をもつて衆人の奴隸となせり。²⁰ユデア人をもうけん
 ためにはユデア人に對してユデア人のごとくになり、²¹律法のもとにある人々をもうけんために
 は、おのれ律法のもとにあらざれども、律法のもとにある人々に對して律法のもとにあるがごと
 くになり、律法なき人々をもうけんためには、おのれは神の律法なきにあらずしてキリストの律
 法のもとにあれども、律法なき人々に對して律法なき者¹²のごとくになり、²²弱き人々をもうけん
 ためには、弱き者に對して弱き者となり、いかにもして数人を救わんためには衆人に對していか
 なる者にもなれり、²³わがいかなることをも福音のためにするは、その分¹³にあずからんとてなり。

第六項 この理を應用して献身を勧む

24 勝負のたとえ

勝負のたとえ 24 汝ら知らずや、競争の場^{きょうそうば}を走る人はことごとく走るといえども、賞^{しょう}を受くる

25 は一人のみ、汝ら受け得べきよう走れ。25 すべて勝負を争う人は万事を控えつつしむ、しかも
彼らは朽つる冠がんむり¹⁴を得んとするに、われらは朽ちざる冠を得んとす。

26 わが方法 26 ゆえにわが走るは目的なきがごとくにはあらず、わが戦うは空を擊つがごとくに
27 はあらず、27 しかもわれ、わが体を打ちてこれを奴隸たらしむ、こは他人を教えて自ら捨てられ
んことを恐るればなり。

①使徒行録9・17、18・9、22・18 ②信徒の費用をもつて養われるの意。③ペトロ。④信者の意。ルカ8・2、3
などと同じ。⑤ラテン訳では、これをなす權。⑥申命記25・4 ⑦ラテン訳では聖殿にて働く。⑧祭壇に獻げられ
る物を食べるの意。⑨報酬なく布教する名譽の意。⑩ラテン訳では乱用。⑪ラテン訳では、なお多くの。⑫ラテン
訳では、すべての人。⑬原文には万民に万事となれりとある。⑭その質は松あるいははたけ、あるいははかんらん
の葉で編んだ冠であった。

1 イスラエル人の例 1 兄弟たちよ、われ汝らのこれを知らざるを好まず、すなわちわれ
2 らの祖先は、みなかつて雲の下にあり、みな海をよぎり、2 みなモイゼ*につきて雲と海とをもつ
4-3 て洗せられ、3 みな同じ靈的食物を食し、4 みな同じ靈的飲料4を飲めり。けだし彼らに従いつつ
5 ありし靈的磐石ばんじやくより飲みおりしが、その磐石ばんじやくはすなわちキリストなりき。⁵ しかれども彼らの多
くは神のみ旨にかなわず、荒野あらのにて倒れたり。

6 その例を應用す 6 これらのこととは、われらにおける前兆ぜんちょうにして、彼らがむさぼりしごとく、
7 われらが悪事をむさぼらざらんためなり。7 汝らはまた彼らのうちなるある人々のごとく偶像崇
拜者となることなけれ、書きしるして、「民は坐して飲食し、立ちて楽しめり」とあるがごとし。⁷
8 また彼らのうちに私通する人々ありて、死する者、一日に二万三千人及びしが、われらは、

彼らのごとく私通すべからず。⁹ また彼らのうちにキリストを試むる人々ありて蛇に滅ぼされし
が、われらは彼らのごとくキリストを試むべからず。¹⁰ また彼らのうちにつぶやく人々ありて滅
ぼす者に滅ぼされしが、汝らは彼らのごとくつぶやくべからず。¹¹ これらのことは、みな前兆と
して彼らに起りつつありしが、その書きしるされたるは世の末が身に及べるわれらの戒めとな
らんためなり。¹² されば自ら立てりと思う人は倒れじと注意すべし。¹³ 汝らにかかる試みは人の
常なるもののみ、神は眞実にてましませば、汝らの力以上に試みらることを許し給わず、かえ
つて堪うることを得させんために、試みとともに勝つべき方法をも賜うべし。

第七項 再び供物の問題を説く

15-14

供物に対する戒め ¹⁴ さればわが至愛なる者よ、偶像崇拜を避けよ。¹⁵ われは知者に対する心
にて語れば、汝ら自らわが言うところを判断せよ。

新約の聖祭 ¹⁶ われらが祝する祝聖の杯はキリストの御血を相ともに授かるの義にあらずや。¹⁷ またわれらが裂くところのパンは相ともに主の御体にあずかるの義にあらずや。¹⁸ けだし、すべ
て一つのパンを授かるわれらは、多人数なりといえども一つのパン、一つの体なり。

旧約の祭典 ¹⁸ 肉によれるイスラエル人を見よ、犠牲を食する人々は祭壇の分配にあずかるに
あらずや。¹⁹さらば何ごとぞ、偶像に獻げられし犠牲は何ものかなり、偶像は何ものかなり、と
われは言えるか、(しからず)。

偶像の祭礼 20 しかれども異邦人の献ぐる犠牲は神に献ぐるにあらずして惡鬼に獻ぐるなり。
 21 われ汝らが惡鬼の友となることを禁ず。汝ら主の杯ひけにえと惡鬼の杯さかずきとを飲むことあたわづ、21 主の祭壇と惡鬼の祭壇とにあずかることあたわざるなり。22 われらは主のねたみを引き起こさんとするか、主よりも強き者なるか。

実用的規則 何ごともわれに可かなりといえども、みな益あるにはあらず、23 何ごともわれに可かなりといえども、みな徳を立つるにはあらず、24 たれもおのがために計らずして人のためを求むべし。25 およそ肉屋にて売る物は良心のために何ごとも問わずして食せよ、26 けだし地およびこれに満てるものは主のものなり。¹⁴ 27 汝ら、もし不信者のうちより招かれ、だく諾だくしておもむくことあらば供せらるるいっさいのものを良心のために何ごとも問わずして食せよ。28 人ありて、これ偶像に獻げられたるものなりと言わば、汝らこれを告げたる人に対し、また良心に対してもこれを食するなれ。29 わがいわゆる良心は汝のにはあらずして、その人の良心なり。けだし何ぞ人の良心によりてわが自由を是非せらるるや。30 もしわれ感謝して食せば、何ぞわが感謝するところのものにつきて、ののしらるるや。

一般の規則 31 されば汝ら、食くうも飲くむまた何ごとなすも、すべて神の光榮のためにせよ。
 32 汝らユデア人にも異邦人にも神の教会にも、つまずかする者となることなれ。33 なおわがおのれの利益となることを求めず、多數の人の救われんために、その有益なることを求めて万事にその心を得んとするがごとくせよ。

① 出エジプト記13・21 ② 出エジプト記14・22 ③ マンナを語る。出エジプト記16、靈的と言われる時は超自然的か

つ奇跡であつて、聖体の秘跡の前表となることによる。④ 岩から湧き出た水の意。出エジプト記17・1~6、民数紀略20・2~11 ⑤ キリストの前表の意。⑥ 出エジプト記32 ⑦ 出エジプト記32・6 ⑧ 民数紀略25 ⑨ あるいは主、あるいは神。⑩ 民数紀略21・5、6 ⑪ 出エジプト記15、16、17、民数紀略11、14、16 ⑫ 天使の意。⑬ キリスト降生以後の時を言う。ガラチア書4・4、エフェソ書1・10、ペトロ前書1・5 ⑭ 詩編23・1 ⑮ ロマ書14・6、チモテオ前書4・4、3

第十章
第一回

1 われも自らキリストにならえるごとく、汝らわれにならえ。

第三編 祭式に関する問題

第一項 集会の時に避くべき弊害

2 婦人は教会においておおいをかむるべし 2 兄弟たちよ、われ汝らが何ごとにおいてもわれを記憶し、汝らに伝えしごとくわが教えを守るを賞す。3 しかるにわれ汝らのこれを知らんことを欲す、すなわちすべての男の頭はキリスト、女の頭は男、キリストの頭は神なり。4 すべて男は頭に物をかむりて祈祷し予言すれば、その頭をはずかしめ、5 すべて女は頭に物をかむらずして祈祷し予言すれば、かえつてその頭をはずかしむ、これ剃髪ていはつせるに等しければなり。6 けだし女もし物をかむらずば髪を切るべし、されど髪を切り、あるいは剃ることを女にとりて恥とせば、頭に物をかむるべし。7 男は神の姿1にしてまた光榮なれば物をかむるべきにあらず、されど女は男の光榮なり、8 これ男は女よりにあらずして女は男よりせり、9 男は女のために造られずして、10 女は男のために造られたればなり。10 このゆえに女は天使たちに対して「いただける」権利「の印」

11 を頭かしらに持つべきなり。11 さりながら主にありては、男なくしては女あらず、女なくしては男あら
 12 ざるなり、12 けだし女が男よりせしごとく、男もまた女をもつてなり、しかしていつさいは神よ
 13 り出ず。13 汝ら自ら判断せよ、物をかむらずして神に祈祷すること、女にとりてふさわしからん
 14 や。14 自然そのものもまた教うるにあらずや。すなわち男、髪を立つれば身にとりて恥なれども、
 15 女の髪を立つるは身のほまれ誉なり、これ女はかむり物として髪を与えられたればなり。16 たといこ
 れをあらがうと見ゆる人はありとも、われらにも神の諸教会4にも、かかる慣例かんれいは存せざるなり。
集まる時の弊害を戒む 17 われこれを命じて汝らを賞せず、そは集まりてよくならず、かえつ
 18 て悪しくなればなり。18 まず汝らが教会として集まる時、分裂ありと聞けば、われ幾分かこれを
 19 信ず。19 けだし汝らのうちに是認せられたる人の現われんためには異端いたんさえ起こるべきはずなる
 をや。

聖さんの時の弊害 20 されば汝らが一つに集まる時は、もはや主の晩さんを食せんとにはあら
 21 ず。21 けだしおのおの先におのが晩さんを食するがゆえに、飢えたる人あれば酩酊めいていしたる人もあ
 22 り。22 飲食するためには自宅あるにあらずや、あるいは神の教会を軽んじて乏しき人をはずかし
 めんとするか、汝らに何をか言うべき、汝らを賞せんか、われこれをば賞せざるなり。

聖体における教理 23 けだし、わが主より承りて汝らにも伝えしところにては、主イエズス渡
 24 され給える夜にあたりてパンを取り、24 謝してこれを裂き、さてのたまわく、汝ら取りて食せよ、
 これは汝らのために渡さるべきわが体なり、汝ら、わが記念としてこれをなせ、と。25 晩さんの
 のち同じく杯さかを取りてのたまわく、この杯はわが血における新約なり、飲むたびごとに汝らわが

記念としてこれをなせ、と。26けだし主の來り給うまで、汝らこのパンを食し、また杯を飲む。⁵
 びごとに主の死を示すなり。⁶ 27ゆえにたれにもあれ、ふさわしからずしてこのパンを食し、ある
 いは主の杯を飲まん人は主の御体と御血とを犯さん。28されば人はおのれをためし、しかしての
 29ち、かのパンを食し杯を飲むべし。29そはふさわしからずして飲食する人は主の御体をわきまえ
 ず、おのが宣告を飲食する者なればなり。30このゆえに汝らのうちには、病める者、弱れる者多
 く、かつ死せる者多し。31われらもし自ら裁かば裁かるることなからん、32裁かるるも、そはこ
 33の世とともに罪せられざらんために主よりこらさるなり。33さればわが兄弟たちよ、食せんと
 34て集まる時、互いに待ち合わせよ。34飢えたる人あらば汝らが集まりて裁かることをまぬかれ
 んために自宅じたくにて食事すべし。その他のこととは、われ至らん時、これを定めん。

①創世記1・26～28 ②創世記2・21～23 ③創世記2・18 ④ラテン訳では教会。⑤ラテン訳では飲まん。⑥ラ

テン訳では示さん。

第二項 灵的賜ものに関する教訓

第一

靈的賜ものの性質 1兄弟たちよ、靈的〔賜もの〕に関しては、われ汝らの知らざる
 2を好まず。2汝ら異邦人たりし時、いざなわるるままに、もの言わぬ偶像におもむきいたりし次
 3第は汝らの知れるところなり。3ゆえにわれ汝らに示さん、たれも神の靈によりて語るに、イエ
 ズス呪われよ、と言¹う人なく、またたれも聖靈によらずして、イエズスを主なり、と言¹うことを行
 得ず。4さて賜もの分配は異なれども靈は同一にてまします。5聖役の分配もまた異なれども

6 主は同一にてまします。6 働きの分配もまた異なれども、すべての人のうちに、すべてのことを行ない給う神は同一にてまします。

8-7 その目的はいかん 7 しかるに靈の現わることを人々に賜わるは公益のためにして、8 一人は靈をもつて知識の言葉を賜わり、9 一人は同じ靈に従いて学識の言葉を賜わり、一人は同じ靈によりて信仰²を賜わり、一人は同じ靈によりて病をいやす恵みを賜わり、10 一人は奇跡を行ない、一人は予言し、一人は精神を識別し、一人は他国語を語り、一人は他国語を通訳することを賜わるなり。11 されども、これらをことごとく行ない給うものは同一の靈にましまして、おぼしめしのままに、めんめんに分け与え給うなり。

12 教会は人体の組織に似たり 12 これ身は一つなるにその肢は多く、身におけるいつさいの肢は多しといえども一つの身なるがごとく、キリストもまたしかるなり。13 すなわちわれらは、あるいはユデア人、あるいはギリシア人、あるいは奴隸、あるいは自由の身なるも、一体とならんために、ことごとく³一の靈において洗せられ、みな⁴一の靈に飲み飽かしめられたり。14 けだし、身は一つの肢にあらずして多くの肢⁵なり、15 足、もし、われは手にあらざるゆえに身に属せず、と言わば、16 言わば、はたして身に属せざるか、17 もし身をこぞりて目ならば聞くところはいざごぞ、身をこぞりて聞はたして身に属せざるか、17 もし身をこぞりて目ならば聞くところはいざごぞ、身をこぞりて聞くところならば、かぐところはいざごぞ、18 されば神は、おぼしめしのままに肢⁶をそれぞれ身に置き給えるなり。19 みな一つの肢⁷ならば身はいざこにかかるべき、20 今、肢⁸は多しといえども身は一つなり。21 目、手に向かいて、われ汝の助けを要せず、と言い、頭もまた両足に向かいて、

汝らわれに必要ならず、と言つあたわず。22 身のうちに最も弱しと見ゆる肢はかえつて必要なり。
 23 また身のうちににおいて、われらがことに卑しと思える肢は、これに物をまといて更に光榮をそ
 ものをも要せず、神は身體を調和し給いて、欠乏せるところには、なお豊かに栄養を加え給えり。
 24 え、また見にくき部分は、ひとしおこれを丁重にすれども、24 尊き部分に至りては、かえつて何
 ものをも要せず、神は身體を調和し給いて、欠乏せるところには、なお豊かに栄養を加え給えり。
 25 これ身のうちに分裂あることなく、肢の相一致し助け合わんがためにして、26 いっの肢苦しめば、
 もろもろの肢ともに苦しみ、一の肢尊ばるれば、もろもろの肢ともに喜ぶなり。

右のたとえの應用。信者はキリストの神秘体の部分なり 27 今汝らはキリストの身にして、そ
 の幾分の肢なり。28 かくて神は教会において、ある人々を置き給うに、第一に使徒たち、第二に
 予言者、第三に教師、次に奇跡「を行なう人」、その次に病をいやす賜もの「を得たる人」、施
 し「をなす人」、つかさどる者、他国語を語る者、他国語を通訳する者を置き給えり。29 こぞり
 て使徒なるか、こぞりて予言者なるか、こぞりて教師なるか、30 こぞりて奇跡を行なう者なるか、
 こぞりて病をいやす恵みを有する者なるか、こぞりて他国語を語る者なるか、こぞりて通訳する
 者なるか、31 汝らは最も良き賜ものを慕え、われはなお、すぐれたる道を示さん。

① ラテン訳では恩寵。② 本書13・2、コリント後書4・13 ③ 堅信の秘跡を授かるとともに聖靈の賜ものを豊かに注
 がれることをさすのだろう。④ ラテン訳では、ひとしお必要。⑤ ラテン訳では肢の肢。

1 第十三章 愛はすべての賜ものに先立つ 1 われたとい人間と天使との言葉を語るとも、愛なけ
 2 れば鳴る鐘、響くによう鉢のごとくなりたるのみ。2 われたとい予言することを得て、いっさい
 の奥義、いっさいの学科を知り、またたとい山を移すほどなるいっさいの信仰を有すとも、愛な

3 ければ何ものにもあらず。3 われたといわが財産をことごとく（貧者の食物として）分け与え、
またわが身を焼かるるために渡すとも、愛なれば、いささかもわれに益あることなし。

愛の結果 4 愛は堪忍し、情あり、愛は妬まず、自慢せず、高ぶらず、5 非礼をなさず²、おの
れのために計らず、怒らず、悪を負わせず³、6 不義を喜ばずして眞実を喜び、7 何ごともつ
み、何ごとも信じ、何ごとも希望し、何ごともこらうるなり。

愛は絶ゆることなし 8 予言はすたり、言語はやみ、知識は滅ぶべきも、愛はいつも絶ゆること
となし。9 けだし、われらの知ることは不完全に、予言することは不完全なれども、10 完全なる
ところ来らば不完全なるところはすたらん。11 わが小兒たりし時は語ることも小兒のごとく、判
断することも小兒のごとく、考うることも小兒のごとくなりしかど、大人となりては小兒のこと
を捨てたり。12 今われらの見るは鏡をもつてしておぼろなれども、かの時には、顔と顔とを合わ
せ、今わが知るところは不完全なれども、かの時には、わが知らるるがごとくに知るべし。13 今
存するものは信、望、愛の三つなれども、なかんずく最も大いなるものは愛なり。

① ラテン訳では、ほどだ。② ラテン訳では、おどらず。③ ラテン訳では思わず。④ ラテン訳では忍び。⑤ 出エジア
ト記 33・11、申命記 34・10

1 言語の賜ものは予言にしかず 1 汝ら愛を求め、かつ靈的賜もの、ことに予言せんこ
とをこいねがえ。2 けだし他国語を語る者は人に語らずして神に語る者なり、そは靈によりて奥
義を語るも聞き取る人なればなり。3 しかれども予言する者は人に語りてその徳を立て、かつ
これを勧め、これを慰む。4 他国語を語る者は、おのが徳を立つれども、予言する者は神の教会

5 の徳を立つ。5 われは汝らがみな他国語を語ることを欲すれども、予言することにおいては、な
おせつなり。そは他国語を語る人、教会の徳を立てんために通訳するにあらざれば、予言する人
はこれにまさればなり。

6 言語の賜ものは通訳に伴わざれば無益なり 6 されば兄弟たちよ、われ今汝らに至りて他国語
を語るとも、もし默示もくじ、あるいは知識、あるいは予言、あるいは教訓をもつて語るにあらずば、
7 汝らに何の益するところかあらん。7 魂なくして音を発するものすら、あるいは笛、あるいは琴、
もし異なる音おんを発するにあらずば、いかでかその吹かれふかれ、あるいは弾かるところの何なるを知
るべし。8 ラッパもし定まりなき音おんを発せば、たれか戦闘の準備をなさんや。9 かくのごとく汝
らも言語をもつて明らかなる談話だんわをなすにあらずば、いかでかその言うところを知らるべき、空くう
に向かいて語る者ならんのみ。10 世に言語の類るい、さばかりおびただしけども、一として意味あ
らざるはなし。11 われもし音おんの意味を知らずば、わが語れる人に夷えびすとなり、語る者もわれに夷えびすと
ならん。12 かくのごとく汝らも靈的賜ものをこいねがう者なれば、教会の徳を立てんために豊か
ならんことを求めよ。13 ゆえに他国語を語る人は、また通訳することをも祈るべし。

14 通訳者なれば集会において言語の賜ものは無益なり 14 けだし、われ他国語をもつて祈る時
は、靈は祈るといえども知恵は効果を得ざるなり。15 さらばこれをいかにすべき、われは靈をも
つて祈り、また知恵をもつて祈らん。靈をもつて歌い、また知恵をもつて歌わん。16 けだし、汝も
し靈「のみ」をもつて祝せば、常人じょうじんを代表する人、いかんぞ汝の祝言しゆげんに答えてアメンと唱えんや、
17 そは汝の何を言えるかを知らざればなり。17 けだし汝が感謝するはよきことなれども、他の人は

19-18

徳を立てざるなり。¹⁸ われは汝ら一同よりも多く他国語を語ることを、わが神に感謝し奉る。¹⁹ されど教会において他国語にて一万の言葉を語るよりは、他の人もも教えたために、わが知恵をもつて五つの言葉を語ることを好む。

不信者に対しても言語の賜ものは予言にしかず ²⁰ 兄弟たちよ、知恵においては汝ら子どもとなることなかれ。悪心においては子どもたるべく、知恵においては大人たるべし。²¹ 律法に書きしるして、「主のたまわく、われこの民に向かいて、異なる言語、異なるくちびるにて語らん、しかかも、われに聞かじ」⁵とあり。²² されば他国語の印となるは信者のためなり。²³ ゆえに、もし教会ござりてひとりとも一所に集まれる時、みな他国語にて語りなば、常人または不信者の入り来りて、汝らを狂える者と言わざらんや。²⁴ されどもし、みな予言せば、入り来る不信者、常人は、一同に対して屈服し、一同のために是非せられ、²⁵ 心の秘密を暴露せられ、さて平伏して神を礼拝し、神、實に汝らのうちにまします、と宣言するならん。

靈的賜ものの使用に関する規則 ²⁶ 兄弟たちよ、しからばこれをいかにすべき。汝らが集まる時は、おののおの聖歌あり、教訓あり、黙示あり、他国語あり、通訳することあり、いっさいのことみな徳を立てしめんためにせらるべし。²⁷ 他国語を語る人あらば、二人、多くとも三人、順次に語りて、²⁸ 一人通訳し、²⁹ もし通訳する人なくば、教会のうちにありては沈黙しておのれと神とに語るべし。³⁰ 予言者は二人あるいは三人もの書いて、他の人は判断すべし。³¹ もし坐せる者にして默示をこうむる人あらば、先の者は黙すべし。³² そは人、みな学びて勧めを受くべく、汝ら

みな順次に予言することを得ればなり。32 予言者の靈は予言者に従う、33 けだし神は、争いの神にあらずして平和の神にてまします。

33-32 婦人は教会において語るべからず 聖徒の諸教会におけるごとく、34 婦人は教会において黙すべし。律法にも言えるごとく、彼らは語るを許されずして従うべき者なり。35 もし何ごとをか学ばんと欲せば自宅にて夫に問うべし、そは教会において語るは婦人にとりて恥ずべきことなればなり。36 神の御言葉は汝らより出でしものなるか、あるいは汝らにのみ至れるものなるか、37 人もし、あるいは予言者、あるいは靈に感じたる者と思われなば、わが汝らに書き送るは主の命なることを知るべし。38 もし知らずば、その人自らも知られざらん。

39 結論 39 されば兄弟たちよ、汝ら予言せんことをこいねがいて他国語を語るを禁ずるなかれ。40 されどいっさいのこと正しく、かつ秩序を守りて行なわるべきなり。

① ラテン訳では、けだし。② ラテン訳では歌われ。③ ラテン訳では靈。④ ラテン訳では五官。⑤ イザヤ 28・11、12
⑥ ラテン訳では教うごとしとあって前句につく。⑦ 創世記 3・16

第四編 教理の問題、すなわち復活のこと

第一項 復活を証す

1 第四編 第一項
キリストの復活によりて証す 1 兄弟たちよ、わがすでに伝えしころの福音を、今

² 更に汝らに告ぐ、汝らは先にこれを受けて、なおこれによりて立てり、²もし、いたずらに信じたるにあらずして、わが伝えしままにこれを守らば、汝らはこれによりて救わるるなり。

³ キリストの復活は真実なり ³すなわち、わが第一に汝らに伝えしは、われ自らも受けしことにて、キリストが聖書に応じてわれらの罪のために死し給いしこと、⁴葬られ給いしこと、聖書に応じて三日目に復活し給いしこと、⁵ケファに現われ給い、そのちまた十一使徒に現われ給いしこと、これなり。⁶次に五百人以上の兄弟に一度に現われ給いしが、そのうちには永眠したる者あれども、今なお生きながらうる者多し。⁷次にヤコボに現われ、次にすべての使徒に現われ、⁸最終には月足らぬ者のごときわれにも現われ給えり。⁹けだし、われは神の教会を迫害せし者なれば、使徒中の最も小さき者にして、使徒と呼ぶるに足らず。¹⁰しかるに、わが今のごとくなるは、これ神の恩寵^{*}によれるなり、かくてその恩寵は、われにおいてむなしからず、われは彼ら一同よりも多く働き。されども、これわれにあらず、われとともにまします神の恩寵^{*}なり。¹¹すなわち、われにまれ、彼らにまれ、われらはかくのごとく述べ伝え、汝らもまた、かくのごとく信じたるなり。

キリスト復活し給わすばいかん ¹²さてキリスト、死者のうちより復活し給えりと述べ伝うるに対して、死者の復活することなしと言ふ人々、汝らのうちにあるは何ぞや。¹³死者の復活することなくばキリストも復活し給わざるべし。¹⁴もしキリスト復活し給わざりしなば、われらの宣教はむなしく、汝らの信仰もまたむなしく、¹⁵しかもわれらは神の偽証人^{ぎしようじん}となるべし。そは死者にして復活せざるものならばキリストを復活せしめ給わざりしものを、われらは神に反して、こ

16 れを復活せしめ給えりと証したればなり。17 けだし死者にして復活することなればキリストも復活し給いことなし。17 キリスト復活し給いことなれば汝らの信仰はむなし、そは汝らなお罪にあればなり。18 さらばキリストにおいて永眠したる人々も滅びたるならん。19 われらがキリストにおける希望、もしこの世のみならば、われらは、すべての人よりも哀れなる者なり。

キリストご復活の好結果 20 されど現にキリストは永眠せる人々の初穂として死者のうちより復活し給いしなり。21 けだし死は人によりて來り、死者の復活もまた人によりて來れり。22 いつさいの人、アダンにおいて死するがごとく、いつさいの人、またキリストにおいて復活すべし。23 ただし、おののおのその順序に従いて、初穂はキリスト、次はその降臨の時キリストのものたる人々、24 次は終わり⁸にして、キリスト、父にてまします神に國を渡し給いて、いつさいの權威、權能、權力を滅ぼし給いたらん時なり。25 彼、すべての敵を御足の下に置き給うまでは王たらざるを得ざるなり。¹⁰ 26 最終に滅ぼさるべき敵は死なり、これ神はキリストの御足の下に万物を服せしめ給いたればなり。¹¹ 27 万物これに服せりとのたまえば、万物を服せしめ給えるものは、その數に入らざること疑いなし。28 万物おのれに服するに至らば、御子自らもまた、おのれに万物を服せしめ給いしものに服し給うべし、これ神は万物において万事となり給わんためなり。

信徒および使徒の行ないによりて証す 29 もし、しからずして死者全く復活することなくば、死者の代わりに洗せらるる人々は何とかすべき、彼らが死者の代わりに洗せらるるは何ゆえぞ。30 またわれらも時々刻々危険に会えるは何のためぞ。兄弟たちよ、われはわが主イエズス・キリストにおいて汝らにつきてわが「受くべき」名譽をさして誓言す、^{せいかん} 31 われは日々死の危険に会う

32 なり。32 われ、ただ人のごとくにしてエフェゾに獸と戦いしならば、われに何の益かあらん。死者、はたして復活せずば、われらいざ飲み食いせん、そは明日死ぬべければなり。¹³

34-33 34 第一項を結ぶ勧め 33 汝ら欺かることなかれ、惡しき交わりは良き風俗を腐敗せしむ。¹⁴ 34 汝ら誠実に警戒して罪を犯すことなかれ。わが言うところ汝らの面目^{めんぼく}を傷つくれども、汝らのうちに神を知らざる者あるなり。

第二項 復活に関する難問に答う

35 復活せる体の性質 35 しかれども人あるいは言わん、死者いかにして復活すべきか、いかなる体をもつて来るべきか、と。

36 種々のたとえ 36 愚かなる者よ、汝のまくものは、まず死なざれば生くることなし、37 またそのまくは将来あるべき体^{たい}をまくにあらず、たとえば麦などのただの種粒^{たねづる}のみ。38 かくて神は、おぼしめすままにこれに体^{たい}を与え、おののの種に固有の体^{たい}を与え給う。39 すべての肉は同じ肉にあらず、人肉^{じんにく}あり、獸肉^{じゅにく}あり、鳥肉^{とりにく}あり、魚肉^{ぎょにく}ありて、おののの相異なるなり。40 また天体あり、地上の体^{たい}あり、されど天上のものと地上のものとの光沢^{こうたく}は相異なるなり。41 日の輝きも、月の輝きも、星の輝きも異にして、星と星とは輝きによりて相異なるなり。

42 そのための應用 42 死者の復活もまたしかり。「身體は」腐敗においてまかれ不朽^{ふきゆう}をもつて復活せん、43 卑賤^{ひせん}においてまかれ光榮をもつて復活せん、虛弱においてまかれ力をもつて復活せ

ん、⁴⁴ 動物的身体にまかれ靈的身体に復活せん。動物的身体あれば、靈的身体もあり、書きしるして、⁴⁵ 「第一の人、アダンは生ける魂とせられたり」とあるがごとく、最後のアダンは生かす靈とせられたり。⁴⁶ 初めよりあるは靈的のものにあらず、動物的のものにして、靈的のものは、¹⁶ のちにあり。⁴⁷ 第一の人は土より出でて土に屬し、第二の人は天より出でて天に屬す。⁴⁸ 土に屬する人々は土に屬せる、かの者のごとく、天に屬する人々は天に屬せる、かの者のごとし。⁴⁹ さればわれらは土に屬するものの形を帶びしごとく、天に屬するものの形をも帶ぶべし。⁵⁰ 兄弟たちよ、われは言わん、血肉は神の國を継ぐあたわず、また腐敗^{ふはい}は不朽^{ふきゆう}を得べからず、と。

復活の方法 ⁵¹ 見よ、われ汝らに奥義を語らん、われらはみな永眠すべきにあらざれども、みな変化すべきものなり。¹⁸ ⁵² すなわち、たちまちの間、またたくひま、終わりのラッパの鳴らん時、けだしラッパは鳴るべく、死者は不朽^{ふきゆう}のものに復活すべく、われらも変化すべきなり。⁵³ そは、この腐敗すべきもの不朽^{ふきゆう}を帶び、この死すべきもの不死を帶ぶべければなり。⁵⁴ この死すべきもの不死を帶びたらん時、書きしるされたる言葉は成就^{じょうじゅ}せん、「いわく」、「死は勝利に飲まれたり」、¹⁹ ²⁰ ⁵⁵ 「死よ、汝の勝利はいざこにある、死よ、汝の針はいざこにある」と。⁵⁶ しかして死の針は罪なり、罪の力は律法なり、²¹ ²² ⁵⁷ わが主イエズス・キリストをもつて、われらに勝利を賜いたる神に感謝し奉る。

第二項を結ぶ勧め ⁵⁸ さればわが愛する兄弟たちよ、確固として動かず、汝らの労働が主においてむなしからざることを悟りて、力を主の業^{きぎょう}につくせ。

① 本書11・23、ガラチア書1・12 ② イザヤ53・4 ③ ルカ22・37、24・25、ヨハネ3・14、使徒行録2・22 ④

- ルカ 24・6 ⑤ ルカ 24・34 ⑥ ラテン訳では一同。⑦ ラテン訳では、その降臨を信じたる。⑧ ペトロ前書 4・7、マテオ 24・6、13、14、ルカ 21・9 ⑨ ラテン訳では、すべての権天使と能天使と力天使とを滅ぼし。すなわち各階級より墮落した悪天使のこと。⑩ 詩編 109 (ラテン訳では 108)・1 ⑪ 詩編 8・8 ⑫ 残酷な敵をさした形容語であろう。
- ⑬ ラテン訳では、この句は前句につながる。⑭ ラテン訳では汝ら義人たちよ。⑮ ラテン訳では失礼ながら言う。⑯ 創世記 2・7 ⑰ ロマ書 5・14 ⑱ ラテン訳では、われらみな復活すべきだ、みな変化すべきにはあらず。⑲ イザヤ 25・8 ⑳ ホセア 13・14 ㉑ 黙示録 9・10 ㉒ ロマ書 7・7、14

末文

エルザレムの信徒のための釀金 1 聖徒たちのためにする釀金につきては、わがガラチアの諸教会に命ぜしがとく汝らもまたしかせよ。2 わが汝らのもとに至りてのち釀金せざらんために、一週間の初めの日ごとに汝らおのおの成功¹に応じて自宅に貯金すべし。3 かくてわれ汝らのもとに至りなば、添書²して汝らの選まん人々を遣わし、汝らの恵みをエルザレムにもたらさしめん。4 われもしも行くべき価値あらば、彼らはわれとともにに行くべきなり。

5 コリントへの今度の旅行 5 われはマケドニアを通らんとするゆえに、マケドニアを通りて汝らのもとに至り、6 多くは汝らとともに留まり、あるいは冬を過ごすこともあらん。これ、いざこに行ぐも汝らより送られんためなり。7 そはわれ、道のついでに汝らを見ることを好まず、主の許し給わば、しばらく汝らのうちに留まらんことを希望すればなり。8 ペンテコステまでエフェゾに留まらんとす、9 そは広くして、かつ貢献あるべき門、わが前に開け、また敵対する者

多ければなり。

種々の依頼。チモテオのこと 10 チモテオ汝らのもとに至らば⁶、注意して恐るるところながら
 11 しめよ。彼は、われと等しく主の業を行なえる者なればなり。11 ゆえに、たれも彼をないがしろ
 にせず、途中を安らかに送りて、わが方に来るを得しめよ、けだし、われは彼と兄弟たちと
 を待てるなり。

アポルロのこと 12 兄弟アポルロのことを告げんに、われ厚く彼が兄弟たちとともに汝らのも
 とに至らんことを願いたれど、彼、今は行くことをがえんぜず、おりよき時をもつて行くならん。
 種々の勧め 13 汝ら警戒して固く信仰に立ち、男らしくふるまい、かつ堅固なれ。14 汝らの業⁸
 ことごとく愛をもつて行なわれよかし。

ステファナラのこと 15 兄弟たちよ、われ汝らにこいねがう、ステファナの家はアカヤ州の初
 16 穂にして、聖徒たちの世話に身をゆだねたるは汝らの知るところなれば、16 汝らもかくのごとき
 人々、およびすべて協力して働く人々に服せよ。17 われステファナ、フォルツナトおよびアカ
 18 イコのここにおるを喜ぶ、そは汝らの不在⁸を補い、18 すなわち、われと汝らとの精神を安んぜし
 めたればなり。されば汝ら、かくのごとき人物を重んぜよ。

種々の挨拶 19 「小」アジアの諸教会、汝らによろしくと言えり。アクリラとプリシラおよ
 びその家の教会は、主においてねんごろによろしくと言えり、(われ、彼らの家に宿る)。20 すべ
 ての兄弟汝らによろしくと言えり。聖なる接吻をもつて互いによろしく伝えよ。

終結におけるパウロの挨拶 21 われパウロ、自筆をもつてよろしくと言う。22 人もし、わが主

24 23 イエズス・キリストを愛せば排斥せられよ。わが主來り給う。23願わくは、わが主イエズス・キリストの恩寵、汝らとともにあらんことを。24わが愛はキリスト・イエズスにおいて汝ら一同とともににあるなり、アメン。

- ①ラテン訳では初めの日に。②ラテン訳では氣にかなえるもの。③使徒行録20、コリント後書2・12、13、8・1、9・2、4 ④ヤコボ4・15、本書4・19、ロマ書15・32 ⑤ラテン訳では明瞭なる。⑥本書4・17、使徒行録19・22 ⑦ラテン訳ではフォルツナトおよびアカイコ。⑧ラテン訳では汝らの欠乏。⑨使徒行録18・2、26、ロマ書16・3